

共同研究グループ活動報告（2016年度）

日中関係研究会

本年度の講演会は一回の開催にとどまったが、関連研究会が多数、開催され、日中関係の過去と現在を再照明するきっかけを作ることができた。2017年からは中山みどりが代表をつとめることになるので、さらなる支援をお願いしたい。以下、本年度に開催された研究会と関連研究会の日程を箇条書きで記す。

(1) 研究会

テーマ：『「交流」の経験』講師：木山英雄先生
（神奈川大学元教員）

日時：2016年7月5日（火）

場所：神奈川大学横浜キャンパス・20号館 453教室

(2) 関連研究会

テーマ：中国古典小説研究30年の回顧と展望

日時：2016年9月4日（日）、9月5日（月）

場所：神奈川大学横浜キャンパス（1号館）

主催：神奈川大学外国語研究科、神奈川大学人文学研究所 中国古典小説研究会

参加者：【中国側】金健人（浙江大学）黄仕忠（中山大学）黄霖（復旦大学）孫遜（上海師範大学）廖可斌（北京大学）楼含松（浙江大学）【日本側】大木康（東京大学）大塚秀高（埼玉大学名誉教授）岡崎由美（早稲田大学）金文京（鶴見大学）

(3) 関連研究会

テーマ：「中国残留孤児だった父を持って～記憶の継承について考える」（城戸久枝氏）

日時：2016年10月22日

場所：横浜キャンパス3号館 B102教室

(4) 関連研究会

テーマ：「上海研究の意味はどこにあるのか」（盧漢超，Professor of History, Georgia Institute of Technology）

日時：2016年6月28日（火曜日）

場所：神奈川大学横浜キャンパス 20-210室

（文責 山口建治）

色彩と文化Ⅳ

本年度より「言語景観」に研究の重きをおく方向で研究会活動を再スタートした。メンバーはそれぞれの研究と関係のあるエリアで言語景観の調査をすすめている。

(1) 研究会の開催：なし

(2) 海外調査

佐藤裕美は、主にイタリア中部のアレッツォで調査を行なった。イタリア語のホテル *arbergo* と英語の *go* を引っ掛けたような看板や駐車禁止の看板の様子などを調べた。

小林潔は、2016年8月23日～31日までロシア連邦アストラハン市に滞在、言語景観のうち日本語使用について市内で調査した。大型商業施設で販売されているもののうち、洗濯洗剤で日本語のラベルを付けて売られているものを写真撮影も含め記録した。当該商品と並んでドイツ語を付した洗剤もあったことから、日本とドイツのものは高品質というイメージがあるものと推察される、と報告している。

尹亭仁は、2016年9月12日～15日までタイのバンコクに滞在、タイにおける日本語の使用・景観について調査した。日本に対して友好的なバンコクでは多くの日本車が走り、紀伊国屋も進出しており、大型商業施設の中には大戸屋をはじめ和食屋が入店していることを確認した。

シーナカリンウィロート大学で日本語を教えている村木先生、田中先生からバンコクでの日本語の景観を日本語教育に生かしている話も聞き、今後の言語景観と外国語教育における有効性などについて意見交換をした。バンコクでの言語景観をレポートとしてまとめ、「国際文化交流専門演習

II」の授業で取り上げた。

2017年度より調査の結果を研究会で発表するなど、共同研究を本格化していく予定である。

(文責 尹亭仁)

言語変異研究

1. 研究内容：今年度は主に言語と社会の関係に関する総合的な研究を行った。特に歴史的言語景観に関する論文執筆と調査研究を行った。
2. 調査研究の主なテーマ：
 - (1) 「言語景観研究の可能性について——ことばと社会のインターフェイス——」
 - (2) 「千年前の中国都市言語景観」
 - (3) 「上海言語景観の百年間の変容——“大世界”の事例研究」
3. 研究所所蔵資料の収集：
 - 『宋画全集』第1巻(8冊), 第2巻(2冊), 第3巻(2冊), 第6巻(6冊) 浙江大学出版社 2008~2010年
 - 『辛亥革命大写真』(全2冊) 湖北美術出版社 2001年
 - 『遺失在西方的中国史』(全2冊) 北京時代華文書局
 - 『近代東亜百年図像集』TW 博揚文化 2012年
4. 2017年度も引き続き歴史言語景観について調査する予定である。

(文責 彭国躍)

活字文化の研究

1. 共同研究グループ名：活字文化の研究
2. 講演会・研究会の開催：適宜、メンバー間での情報共有を行った
3. シンポジウムの開催：特になし
4. 活動内容
 - (1) 活字を通じた日本語教育と異文化理解(国際)に関する調査・研究
 - (2) 活字文化普及のための教育・啓発活動(教育)に関する調査・研究

(文責 松本安生)

〈身体〉とジェンダー研究

活動内容

- ・本研究グループと都市表象研究グループを母体とした神奈川大学共同研究推奨助成を得た研究の成果物『破壊のあとの都市空間——ポスト・カタストロフィーの記憶』(熊谷謙介編著, 青弓社)が今春出版される。本研究グループ構成員からの寄稿も3点含まれている。
- ・本年度は、ジェンダーと身体に関わる研究を個々にすすめながら、新たな問題提起と論点を開拓するべく、年度末に勉強会を開催することを予定している。

(文責 小松原由理)

自然観の東西比較

1. 共同研究グループ名：自然観の東西比較
2. 講演会・研究会の開催
 - 第1回研究会
 - 開催日：2016年5月25日(水)
 - 会場：17-216
 - 発表者：前田禎彦(神奈川大学外国語学部教授)
 - 演題：平安京社会と寺院・神社
 - 第2回研究会
 - 開催日：2016年6月29日(水)
 - 会場：17-216
 - 発表者：大川真由子(神奈川大学外国語学部准教授)
 - 演題：中東・イスラームにおける自然観——沙漠・遊牧民・ラクダ——
 - 第3回研究会
 - 開催日：2016年7月28日(木)
 - 会場：17-216
 - 発表者：上原雅文(神奈川大学外国語学部教授)
 - 演題：東西の「基層的自然観」とその変容の概要——その2(東洋編)
 - 第1回講演会
 - 開催日：2016年10月26日(水)
 - 会場：17-216

発表者：石原あえか（東京大学総合文化研究科准教授）

演 題：ゲーテの詩と音楽から読み取る神と自然と人間

第2回講演会

開催日：2016年11月30日（水）

会 場：17-216

発表者：大工原豊（國學院大學兼任講師，本学非常勤講師）

演 題：縄文ランドスケープ研究の現状——縄文人の自然観・宗教観——

第4回研究会

開催日：2017年2月22日（水）

会 場：17-216

内 容：『人文研究』No. 109（2016年）に発表された，研究テーマに関する以下の論文の合評会

伊坂 青司「シェリングの絵画論とフリードリヒのロマン主義風景画」，上原 雅文「日本の自然観の変遷（その一）—原初神道における—」，山本 信太郎「パー爺さんとその時代—近世イングランドの長寿者の物語—」，坪井 雅史「日本沿岸捕鯨史研究のための覚書—福本和夫『日本捕鯨史話』を中心に—」

3. シンポジウムの開催計画

なし

4. 活動内容

本研究グループは，昨年度から神奈川大学共同研究奨励助成金の交付を受け，研究計画に沿った活動を行っている。本年度も引き続き，研究調査の実施，研究会・講演会の開催など，活発な活動ができた。外部講師による講演会を2回開催し，不足していた知見を得ることができ，活発な議論も交わされた。本年度は，研究会と講演を通じて，日本およびイスラームという東洋の自然観研究に進展が見られた一年であった。

（文責 上原雅文）

近代都市の表象

1. 近代都市の表象

2. 今年度は，人文学研究所叢書の執筆と校正を

おこなった。熊谷謙介編著『破壊のあとの都市空間—ポストカタストロフィーの記憶』（青弓社）が当該叢書であり，2017年3月に出版予定である。

3. 夢と幻滅とを伴いつつ近代化し，さまざまな問題と直面してきた欧米・東アジアの都市について，どのような表象がどのような諸力と関連しながら提示されてきたのかを検証する。
（文責 鳥越輝昭）

ヒト身体の文化的起源

1. 共同研究グループ名：ヒト身体の文化的起源
2. 活動内容

① 人間の身体を系統的に遡り，その根源を考察することで，身体が持つ機能的な意義を検討した。

I 関節運動を増幅するアキレス腱の屈曲点について調査・研究を進め，下記の論文が発行された。

・ Influence of intramuscular fiber orientation on the Achilles tendon curvature using three-dimensional finite element modeling of contracting skeletal muscle. *Journal of Biomechanics* 49 (14): 3592-3595, 2016.

II ヒトの四足走行に関する研究を進め，下記の論文が発行された。また，下記の学会での発表を行った。

・ How fast can a human run? — Bipedal vs. Quadrupedal Running. *Frontiers in Bioengineering and Biotechnology* 4: 56

・ ヒト四足歩行のキネマティクス．第24回日本バイオメカニクス学会（立命館大学びわこ・くさつキャンパス @ 草津市，平成28年9月12日～14日，2016）

・ The metabolic cost of quadrupedal walking in human. 21st annual Congress of the European College of Sport Science (Vienna, Austria, July 6-9, 2016)

（文責 衣笠竜太）

帝国とナショナリズムの言説空間

1. 公開シンポジウムの開催 (2016年11月23日～24日)

場所: 国立フィリピン大学アジア研究センター
(マニラ)

第1日: 11月23日:

9:00～9:15 Opening Address: Joeje Santarita
(University of the Philippines)

9:15～9:30 Theme of the Symposium: Yoshiko
Nagano (Kanagawa U)

9:30～11:30 Session 1: *Empire and Southeast
Asia*

Moderator: Dulce Natividad (University of
the Philippines)

Paper Presenters:

Patrick Campos (University of the Philip-
pines):

“The Empire in “World” Cinema and the
“Nation” in Southeast Asian Regional Cin-
emas”

Hiroshi Murai (Kanagawa U):

“Chinese New Village and Citizenship of
Chinese Population in British Malaya,
1948-1957”

Discussant: Michelle Palumbarit (University
of the Philippines)

12:30～14:30 Session 2: *Colonial Modernity and
Nationalism*

Moderator: Janus Nolasco (University of the
Philippines)

Paper Presenters:

Reuben Ramas Cañete (University of the
Philippines):

“20th Century Philippine Art: Reflections
of an Imperial Origin and its Nationalist
Possibilities” (withdraw)

Nobutaka Suzuki (University of Tsukuba):

“Debate over U.S. Rubber Plantation in
the Colonial Philippines”

Discussant: Stewart Young (University of the
Philippines)

14:45～16:45 Session 3: *Nationalism and
Diplomacy*

Moderator: Janus Nolasco (University of the
Philippines)

Paper Presenters:

Ramon G. Guillermo (University of the Phil-
ippines):

“Selamatkan May Jane!”: Stirrings of a
New Internationalism?”

Ryo Takagi (Kanagawa U):

“Discursive Space of Political/Social
Movement in Thailand: Some Back-
ground to the Conflict”

Discussant: Antoinette Raquiza (University
of the Philippines)

第2日目: 11月24日:

10:00～12:00 Session 4: *Reification of (Postcolo-
nial) Nationalism*

Moderator: Victoria Quimbo (University of
the Philippines)

Paper Presenters:

Michiyo Yoneno-Reyes (The University of
Tokyo):

“National Culture Making and American
Legacy: The Location of ‘National Cultur-
al Minorities’”

Kazutaka Hisada (Kanagawa University):

“Public Diplomacy and Nationalism: Fo-
cusing on Comparison with ROK and Ja-
pan”

Discussant: Benjamin San Jose (Ateneo de
Manila University)

13:00～15:00 Session 5: *Empire and National-
ism in History*

Moderator: Henelito Sevilla, Jr. (University of
the Philippines)

Paper Presenters:

MCM Santamaria (University of the Philip-
pines):

“[Re]imag[in]ing Sulu: Photography, Scholarship and Representations of the Philippine South in the Philippine Center Advanced Studies Ethnographic Survey”

Hidekazu Sensui (Kanagawa University):

“The Myth of a Humanitarian Marine: Racisms and Nationalism in Remembering the Battle of Saipan”

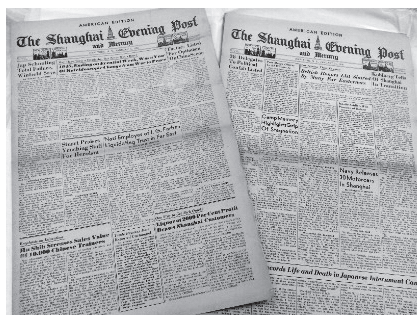
Discussant: Ricardo Jose (University of the Philippines)

15 : 00~15 : 15 Closing Remarks: MCM Santamaria (University of the Philippines)

2. 活動内容

神奈川大学共同奨励研究助成金「帝国とナショナリズムの言説空間：国際比較と相互連携の総合的研究」(2014~2016年度)と同時並行で進めている共同研究グループである。第3年度の研究活動をまとめるにあたり、3月23~24日に本学箱根保養所にてセミナーを開催し、来年度に研究叢書を刊行する準備を行う予定である。

(文責 永野善子)



NCH 新聞研究会

本研究会は、神奈川大学が所蔵するNCH (North China Herald) 新聞 (ONLINE 版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究を目指している。本年度は、『良友』画報研究会と共同で複数の研究会を開催することができた。また、資料方面では、The Shanghai Evening Post and Mercury (1943年~1946年, NY版) を購入することができた (『良友』画報研究会と共同)。

その他に関連研究会として「上海研究の意味はどこにあるのか」(2016年6月28日, Hanchao Lu, Professor of History, Georgia Institute of Technology, 横浜キャンパス20-210室) を開催した。

また、国際シンポジウム「上海と『良友』画報の世界」(10月22日) もNCHとの関連のある研究会であったので、以下、概略を箇条書きで記しておく。

第一部

- (1) 「『良友』にみる食文化について」岩間一弘 (慶應義塾大学)
- (2) 「『良友』画報と文学」中村みどり (神奈川大学)
- (3) 「『良友』画報と日本表象」石川照子 (大妻女子大学)

討論：孫慧敏 (台湾中央研究院), 林美莉 (台湾中央研究院), 陳祖恩 (上海社会科学院)

第二部

- (1) 「『良友』画報とポスター」田島奈都子 (青海市立美術館)
- (2) 「『良友』画報と漫画」城山拓也 (立命館大学)
- (3) 「上海小報議《良友》」林美莉 (台湾, 中央研究院)
- (4) 「『誰讀《良友》?』」孫慧敏 (台湾, 中央研究院)
- (5) 「『良友』画報和大上海都市計画」陳祖恩 (東華大学)

討論：菊池敏夫 (神奈川大学), 村井寛志 (神奈川大学), 森平崇文 (神戸学院大学)

(文責 孫安石)

声の文化

今年度は以下のとおり研究会を2回実施した。
日時：2016年5月31日（火）18：00～19：30
場所：人文学研究所資料室
報告者：深澤徹 外国語学部教授
題目：「かたらう日本語とかたどる欧米語——演能の場における「アイ」の語りのはたらきをめぐって——」

日時：2016年12月7日（水）16：30～18：00
場所：人文学研究所資料室
報告者：山口健治 外国語学部教授
題目：「民間信仰の当て字、武塔（ムタフ）神と牛頭（ゴズ）天王——私の声の文化研究——」

また、前年度末に以下の映画上映会と談話会を開催した（前年度の報告に未記載）。

日時：2016年3月4日（水）17：00～20：30
場所：3号館204
上映作品：『うたうひと』
内容：酒井耕・濱口竜介監督の宮城県の民話採訪ドキュメンタリー映画『うたうひと』（2013年、120分）を鑑賞後、参加者が映画の感想と「声の文化」の意義と継承について語り合う談話会を行った。映画鑑賞後の談話会では、民話研究、映画研究、文学研究など、多角的な視点からコメントがあり、示唆に富む充実した意見交換が行われた。参加者は共同研究グループ「声の文化」のメンバーのほか、他大学の研究者、作家、文芸編集者など、多様な分野の専門家が集まり、本研究グループの活動に広がりがもたらされた。

（文責 村井まや子）

日韓対照言語研究

本年度発足した「日韓対照言語研究」は「日韓両言語におけるヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究」を当面の課題として掲

げ、研究活動をすすめている。

(1) 研究会の開催

日時：12月7日（水）16：30～18：00
発表者1：佐藤裕美（本学教授）
テーマ：「パーフェクトと過去：アスペクト形態素—テイルの考察から」
発表者2：李忠均（本学非常勤講師）
テーマ：「韓国語テキストにおけるアスペクト表現」

(2) 海外調査

尹亭仁：ソウルにある韓国国会図書館および教保文庫で日韓両言語におけるヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティ関連の研究の現状および参考資料などについて調べた。2016年7月24日～27日

今後、年数回の研究会を計画しており、来年度は主に「テンス・アスペクト」に焦点を絞り4月からコンスタントに開く予定である。そのため全メンバーに発表を呼びかけている。韓国で日韓対照研究を行なっている研究者にも声をかけ、交流を深める方針である。

（文責 尹亭仁）